



■ 長年の本の寄贈に感謝いたします

1月16日(木)、大崎中学校図書室において春田^{よしふみ}嘉文さんへの感謝状贈呈式が行われ、藤井教育長をはじめ、関係者ら10名、生徒会から生徒15名が出席しました。

春田さんは本町(益丸)出身で、現在は千葉県船橋市にお住まいです。平成ホーム(株)の会長をされており、昭和52年から現在に至るまで、約45年の長きにわたり大崎中学校と大崎町立図書館に本(小説や辞書など)を寄贈してくださいました。

贈呈式の中で、生徒会長の木尾^{ゆうと}優仁さんは「45年にわたり本を寄贈してくださりありがとうございました。春田さんが寄贈してくださった本は大崎中学校にとって大切な宝物となっています。本当にありがとうございました」と感謝の気持ちを述べました。

木尾さんから花束を受け取った春田さんは「故郷である大崎町のために続けてきました。45年という節目の年にこのような贈呈式をしてくださり感謝します」と述べられました。

春田嘉文さんに謹んで感謝申し上げます。ありがとうございました。



▲花束を受け取る春田さん



▲春田さんと記念撮影する竹本校長先生と生徒会の皆さん

まびの窓おの庭

『「勿体ない」という意識づけを』

No.59 大崎町退職校長会 久木田 瑞夫

現在、私たちの身の周りには物が溢れ、物が余り、何一つ不自由のない豊かな環境の中で生活している。このような生活を振り返りながら、「いつまでもこのような生活が続けられるのか」と不安になることがある。最も身近な食べ物もご多分にもれず、現に「飽食の時代」と言われるように時代までつくり上げている。人々が食べ物を食い飽きているということであろう。食べ物だけでなく、衣類も飽食と同じような考えで暖衣と呼ばれている。自分の衣服が破れても、それを修復して再び着用することなど殆どないのではないか。

本当にこのままでいいのかと考えていたある日、消費者庁消費者政策課から「家庭での食品ロス」という題のパンフレットが各家庭に配布された。内容は、消費者庁が、ある自治体で行った食品ロスの調査を分析した結果のまとめたものであった。

食品ロスとは、食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、日本の食品ロス量はなんと、一日10トトラック約1700台分だという。この食品ロスを少なくし、なくさなければいけない。では、どうすれば良いか。それは、国民一人ひとりが「勿体ない」という意識をもつことではないか。物の豊富な今だからこそ思う。食べ物だけでなく、全てに。